

I. 1. 教育目標等・入試・学位取得状況

【教育目標】

大阪大学の教育目標のもと、言語文化研究科は、言語及びそれを基底とする文化について理論及び実践の両面にわたる教育研究を進め、現代社会の国際化・情報化に即応した高度な言語文化リテラシーを身に付けるとともに、そこで得られた知見を世界に向けて発信し得る人材を養成することを目的とします。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

言語と文化に関する最先端かつ高度な専門性と深い学識を養います。

言語文化研究科は3専攻から成り、言文専攻は、主に超域的・普遍的・理論的な観点から、言語文化の成り立ちや、そのあるべき姿を追求します。言語社会専攻では、世界の諸言語とそれを基底とする社会や文化に関する理論と実践にわたる教育研究を行います。日本語・日本文化専攻は、日本語・日本文化を取り巻く新しい状況において、日本語・日本文化を世界の諸言語・文化・社会との有機的な関係の中で捉える研究教育を推進しています。

○高度な教養

既存の学問領域に捕らわれず、高度な教養を身に付け、複眼的、俯瞰的に思考し、多角的に評価できる力を養います。

○高度な国際性

グローバル化や情報化が進展する今日、政治・経済・教育などの領域において、世界の諸地域・諸民族の相互理解を成り立たせるためには、それぞれの言語や文化を適切に理解し尊重する姿勢が必要です。このような社会において、言語や文化の差異を越えて、豊かなコミュニケーションを实らせる高度な言語能力を養います。

○高度なデザイン力

言語と文化に関する本質的かつ複雑多様な課題を発見し、解決の道筋を構想できる力を養います。さらに、言語文化の成り立ちに対する洞察力、得られた知見を多様な情報手段によって発信する能力を養います。

言語文化研究科は、これらの3専攻の特色を活かしつつ、博士前期課程及び博士後期課程を通じて、社会の多様な分野のリーダーとして活躍し得る人材の育成に取り組みます。

【ディプロマ・ポリシー】

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもと、言語文化研究科は、言語と文化に関する高度な専門性と深い学識、教養・デザイン力・国際性を身に付け、所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に修士（言語文化学）または修士（日本語・日本文化）及び博士（言語文化学）または博士（日本語・日本文化）を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

<博士前期課程>

- ・言語文化に関する最先端かつ高度な専門性と深い学識を有する。

<博士後期課程>

- ・研究者ならびに高度専門職業人に必要な言語文化に関する高度な専門性と深い学識ならびに高度な研究能力を有する。

○高度な教養

- ・日本及び国際社会の多様な言語文化現象に関して、既存の学問領域に捕らわれない、学際的で幅広い高度な教養を有する。

○高度な国際性

- ・言語文化を研究する立場から国際化・情報化の進展する現代社会に深い関心を寄せ、それぞれの言語や文化を適切に理解し尊重する姿勢を有する。
- ・言語や文化の差異を越えて、円滑なコミュニケーションを図る高度な言語運用能力を有する。

○高度なデザイン力

<博士前期課程>

- ・言語文化に関する専門分野において、本質的かつ複雑多様な課題を発見し、的確なデータ・文献資料収集を通して、解決の道筋を構想できる能力を有する。

<博士後期課程>

- ・言語文化に関する専門分野において、自らの課題に対して、先行研究を広く踏まえつつ、独創的かつ先端的な研究を展開できる能力を有する。

博士前期課程においては、上記の能力を身に付けた学生に修士（言語文化学）または修士（日本語・日本文化）の学位を授与します。また、博士後期課程においては、博士（言語文化学）または博士（日本語・日本文化）の学位を授与します。

【カリキュラム・ポリシー】

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもと、言語文化研究科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や技能を修得させるべく、体系的かつ多様な科目の授業及び学位論文作成に対する指導を行います。

言語文化研究科では、3専攻が提供する言語文化に関する専門教育科目に加え、学際的な課題を発見する能力を育成する高度教養教育科目、グローバルな知見に基づき研究を遂行する能力を育成する高度国際性涵養教育科目を提供し、学際的かつ国際的な研究指導を行います。

言語文化専攻は、言語文化比較交流論、言語文化システム論、現代超域文化論を中心に履修する分野、言語コミュニケーション論、言語文化教育論を中心に履修する分野、言語情報科学論、言語認知科学論を中心に履修する分野を設定しています。学生は自身の専門分野にかかわらず、横断的に幅広く科目を履修でき、学際的な研究が可能です。学生の研究指導は2名の教員が担当するが、指導教員以外にも、専攻の全教員に指導を求めることができる「集団指導体制」を取っています。

言語社会専攻の前期課程は、24の専攻言語の科目群の他に、広域言語論、地域言語社会特論、複合領域特論、関連研究言語の科目群を設け、それぞれの多様な科目を提供しています。学生の研究指導は、前期課程の学生には各専攻言語の教員を中心に2名の教員が担当します。後期課程では、専攻言語を問わない教員3名による研究指導体制を取っています。

日本語・日本文化専攻では、前期課程において、日本語学・言語学系域、日本語教育学系域、日本文化学系域の3つの系域ごとに専門科目を開設しています。また、各系域に、全教員の担当による総論科目を開設し、広い視座から研究に取り組むための基礎的知識を教授します。研究指導は、前期課程の学生には2名、後期課程の学生には3名の教員が担当します。

授業形式は、学生自身による問題解決型の学習を取り入れつつ、各専門教育科目の教授内容に合わせ、講義、演習、実習と様々です。また、博士前期課程においては、高度教養教育科目ならびに高度国際性涵養教育科目をそれぞれ2単位修得します。

学修の成果は、筆記試験、口頭試験、研究報告等、シラバスに記載されている方法、ならびに修士論文及び博士論文により評価します。

【アドミッション・ポリシー】

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもとに、言語文化研究科は、教育目標に定める人材育成の方針に沿って、多様な学生を募るための適切な選抜方式（原則として筆記試験及び口述試験による）を採用しています。

言語文化専攻は、総合的・超域的な言語文化研究を重視するため、人文学だけでなく、社会科学や自然科学の分野の学生、また留学生や社会人に広く門戸を開いています。博士前期課程の筆記試験では、カリキュラム・ポリシーに掲げた各履修分野に関する論述問題、履修分野共通の問題、外国語などの問題を課します。博士後期課程入学試験では、修士論文等の応募論文も審査の対象となります。

言語社会専攻では、特定地域の言語の専門的知識を身につけ、その言語ないし言語圏に関する言語学、文学、歴史学、社会学、政治学等の先端的な研究を実践し得る人材を適正に選抜するための入学試験を行います。英語教員リカレントコースと中国語教員リカレントコースでは、各言語の優れた専門的知識及び各言語圏の文化と社会に関する高度な教養を身につけようと望む現役の教員を求めています。

日本語・日本文化専攻は、一般、社会人、留学生の3つのカテゴリで入学試験を行います。また、広く世界から優秀な人材を求めるため、入学時期と試験方法の異なる2つのコースを設けています。

- ・日本語・日本文化実践コース（一般、社会人、留学生）4月入学
- ・日本語・日本文化専修コース（留学生のみ）4月及び10月入学（博士後期課程は10月のみ）

○入試説明会日程

年 度	実 施 日	参加者数	場 所
平成 28 年度	平成 28 年 6 月 19 日(日)	88 名	千里阪急ホテル
平成 29 年度	平成 29 年 6 月 18 日(日)	88 名	千里阪急ホテル
平成 30 年度	平成 30 年 6 月 17 日(日)	101 名	千里阪急ホテル

○入試出願者数

<言語文化専攻>

博士前期課程

	夏 季 試 験			冬 季 試 験		
	定員	出願者	出願倍率	定員	出願者	出願倍率
平成 29 年度入試	18	57	3.2	14	49	3.5
平成 30 年度入試	18	47	2.6	14	48	3.4
平成 31 年度入試	18	44	2.4	14	35	2.5

博士後期課程

	定員	出願者	出願倍率
平成 29 年度入試	15	18	1.2
平成 30 年度入試	15	24	1.6
平成 31 年度入試	15	23	1.5

<言語社会専攻／日本語・日本文化専攻>

博士前期課程

		夏季試験			冬季試験		
		定員	出願者	出願倍率	定員	出願者	出願倍率
平成 29 年 度入試	言語社会	18	19	1.1	7	6	0.9
	日本語・日本文化	7	14	2.0	3	7	2.3
平成 30 年 度入試	言語社会	18	20	1.1	7	20	2.9
	日本語・日本文化	7	14	2.0	3	7	2.3
平成 31 年 度入試	言語社会	18	16	0.9	7	25	3.6
	日本語・日本文化	7	13	1.9	3	11	3.7

博士後期課程

		定員	出願者	出願倍率
平成 29 年 度入試	言語社会	8	12	1.5
	日本語・日本文化	5	10	2.0
平成 30 年 度入試	言語社会	8	12	1.5
	日本語・日本文化	5	8	1.6
平成 31 年 度入試	言語社会	8	15	1.9
	日本語・日本文化	5	5	1.0

なお、日本語・日本文化専攻では、国費外国人留学生（研究留学生）の優先配置を行う特別プログラムとして、「日本語・日本文化専修コース特別プログラム」を設け、博士前期課程及び博士後期課程において外国人留学生の受入れを行っている。

博士前期課程

平成 28 年 4 月入学（優先配置以外）	定員	若干名	出願者	20 人
平成 28 年 10 月入学（優先配置枠）	定員	6 人	出願者	14 人
〃（優先配置以外）	定員	若干名	出願者	20 人
平成 29 年 4 月入学（優先配置以外）	定員	若干名	出願者	10 人
平成 29 年 10 月入学（優先配置枠）	定員	6 人	出願者	16 人

〃	(優先配置以外)	定員	若干名	出願者	17人
平成30年	4月入学(優先配置以外)	定員	若干名	出願者	17人
平成30年	10月入学(優先配置以外)	定員	若干名	出願者	9人
平成31年	4月入学(優先配置以外)	定員	若干名	出願者	13人

博士後期課程

平成28年	10月入学(優先配置枠)	定員	4人	出願者	6人
〃	(優先配置以外)	定員	若干名	出願者	2人
平成29年	10月入学(優先配置枠)	定員	4人	出願者	5人
〃	(優先配置以外)	定員	若干名	出願者	1人
平成30年	10月入学(優先配置枠)	定員	若干名	出願者	6人

○平成31年度入学試験概要

<言語文化専攻>

博士前期課程

募集人員：夏季試験18人程度 冬季試験14人程度

選抜方法：出身大学の成績証明書、研究計画概要、学力検査を総合して行います。

夏季試験 学力検査：論述試験〔専門科目〕

口述試験〔出願時に提出した研究計画概要を中心に試問し、研究を進めるために必要な知識や学力を判定します。〕

冬季試験 学力検査：論述試験〔専門科目及び外国語〕

口述試験〔出願時に提出した研究計画概要を中心に試問し、研究を進めるために必要な知識や学力を判定します。〕

※自然科学系学部(または学科)を卒業した者及び卒業見込みの者、ならびに社会人は、夏季試験を受験することが望ましい。

博士後期課程

募集人員：15人

選抜方法：論述試験、応募論文等考査、口述試験の結果、出身大学院の成績証明書及び研究計画概要等を総合して行います。

論述試験〔外国語〕

口述試験〔出願時に提出した研究計画概要及び応募論文等を中心に試問し、研究を進めるために必要な知識や学力を判定します。〕

<言語社会専攻／日本語・日本文化専攻>

博士前期課程

募集人員：言語社会専攻 夏季試験 18人程度 冬季試験 7人程度

日本語・日本文化専攻 夏季試験 7人程度 冬季試験 3人程度

選抜方法：学力検査の成績、口述試験、入学試験論文及び成績証明書等の審査の結果を総合して行う。

①学力試験 専門科目(200点) 各自の専攻分野に応じた地域及び言語に関する問題

言語 (100点) 中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、ドイツ語、デンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、日本語から、第一言語(母語)以外の言語を選択。

※社会人区分及び外国人留学生区分による出願者については、言語試験を課さない。

②口述試験 入学試験論文に関し、口述試験を行う。

※言語社会専攻の社会人区分及び外国人留学生区分による出願者については、入学試験論文に代わる課題論文及び研究計画書について口述試験を行う。

博士後期課程

募集人員：言語社会専攻 8人

日本語・日本文化専攻 5人

選抜方法：学力検査の成績、口述試験、修士論文、研究計画書及び成績証明書等の審査の結果を総合して行う。

①学力試験 言語(100点) 中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、ドイツ語、デンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、日本語から、第一言語(母語)以外の言語を選択。

②口述試験 修士論文等及び志望する専攻分野について口述試験を行う。

○学位取得者数

()内の数は、内数で留学生を示す。

<言語文化専攻>

年 度	修 士	課程博士	論文博士
平成 28 年度	31(16)	10(1)	0
平成 29 年度	32(11)	7(3)	0
平成 30 年度	29(15)	14(7)	1(0)

<言語社会専攻>

年 度	修士	課程博士	論文博士
平成 28 年度	14(2)	6(3)	1(0)
平成 29 年度	17(4)	7(1)	0(0)
平成 30 年度	16(5)	5(3)	0(0)

<日本語・日本文化専攻>

年 度	修士	課程博士	論文博士
平成 28 年度	24(17)	4(4)	0(0)
平成 29 年度	26(18)	9(9)	0(0)
平成 30 年度	21(16)	7(6)	1(0)